

日本の食糧・農業の現状と 伝統野菜について

神戸の伝統野菜保存会
代表 渡部 啓史

1. 自己紹介

- ▶ 大学卒業後、製造メーカーに70歳まで勤務
- ▶ 神戸市シルバーカレッジ園芸専攻科入学

研究テーマ< 伝統野菜 >

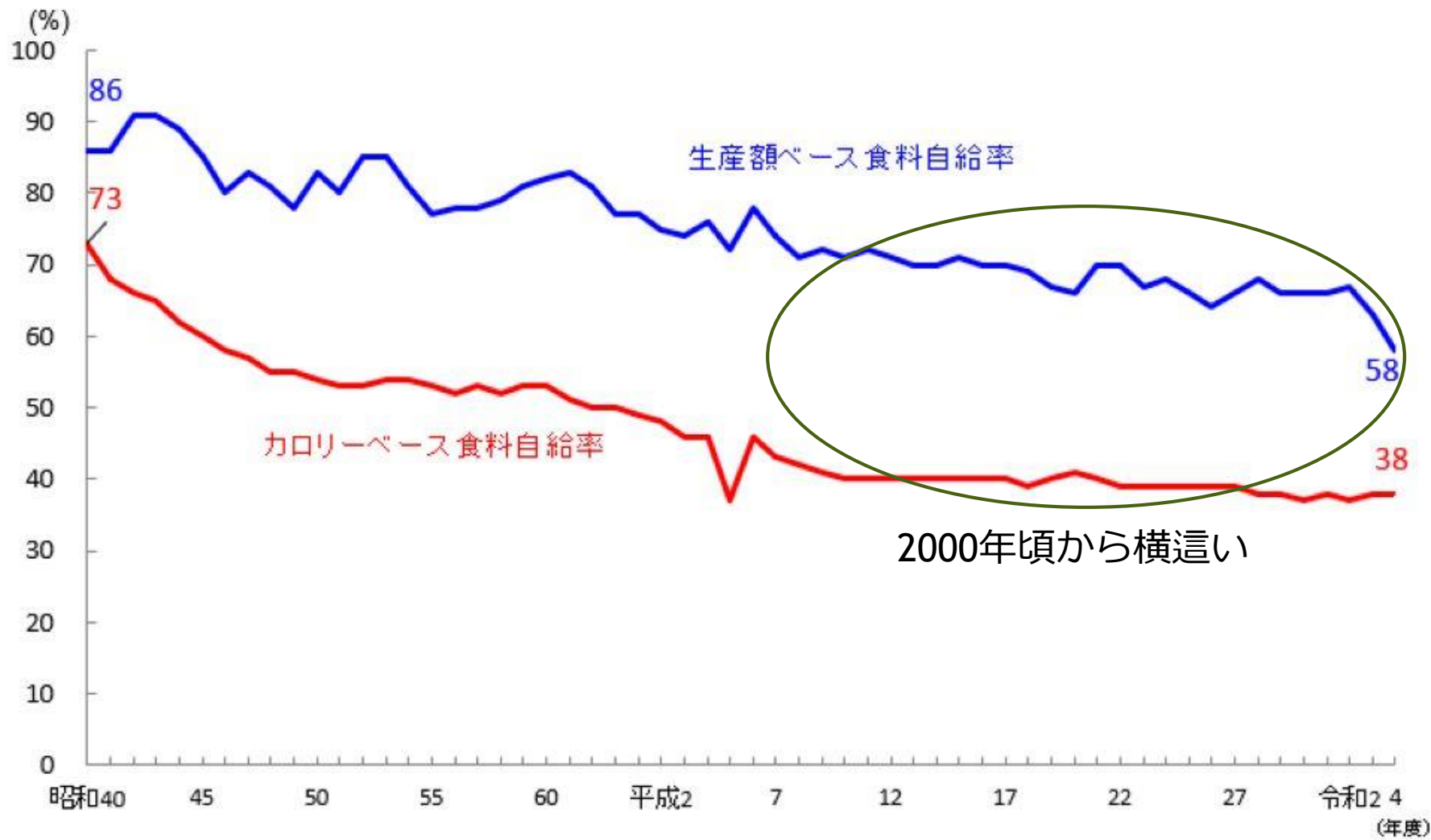
➡ **神戸**の伝統野菜を**発掘**、原種の種・苗を入手し試験栽培を実施
3年間、研究栽培に没頭！！

その後・・・

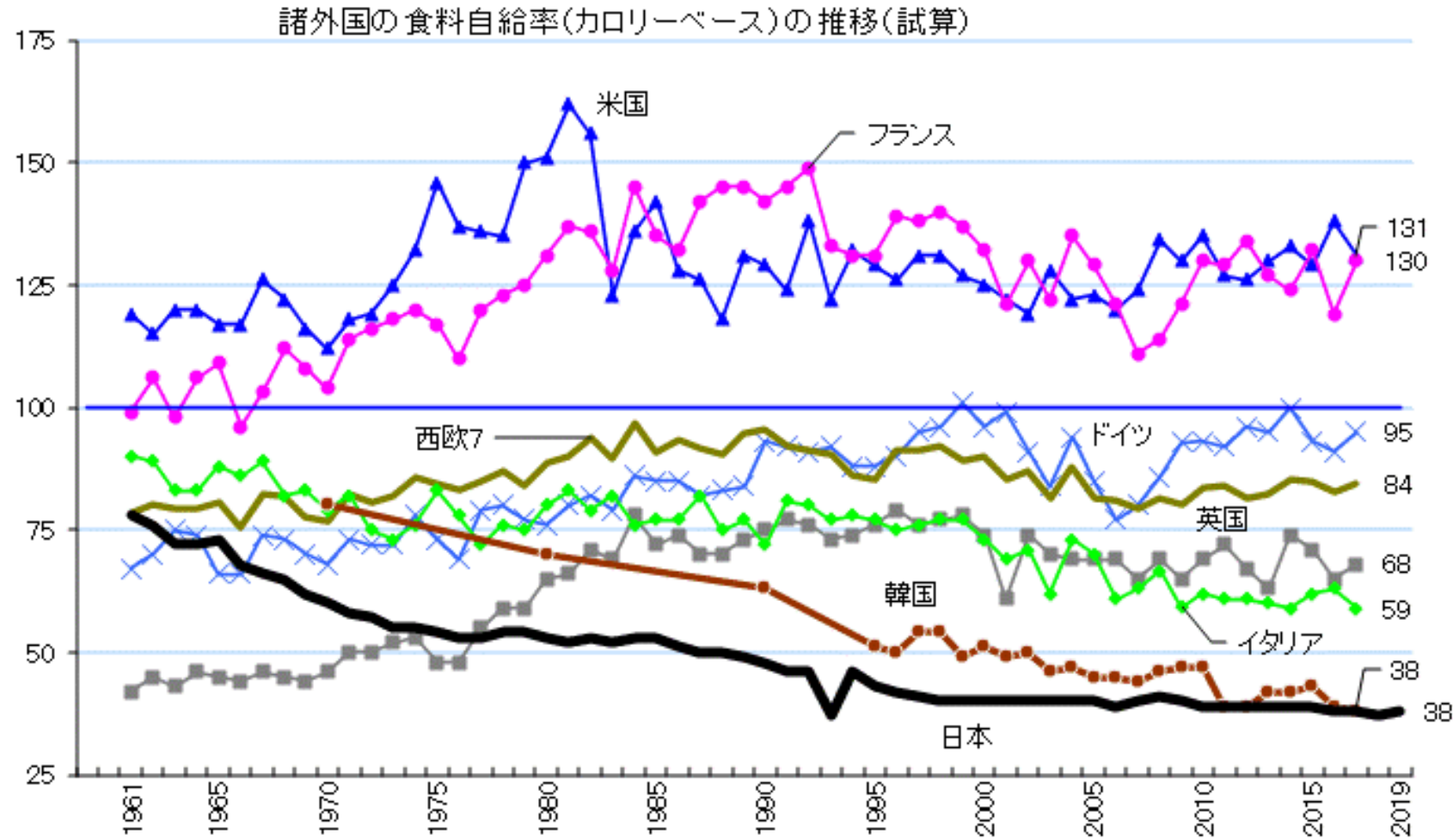
- ▶ 「**神戸の伝統野菜保存会**」をシルバーカレッジOB・OGと共に設立
- ▶ 押部谷にて伝統野菜・在来作物を栽培
- ▶ 兵庫県立淡路景観学校の協力を得て、「**原種保存栽培**」を開始、現在も継続中
- ▶ 神戸学院大学経営学部田中副学長の協力を得て、「**伝統野菜を使った商品の開発**」を開始、継続中
- ▶ 「**子ども食堂への野菜提供**」や「**親子農業体験**」を開催しています

2. 日本の食糧・農業の現状

(1) 食糧自給率の推移

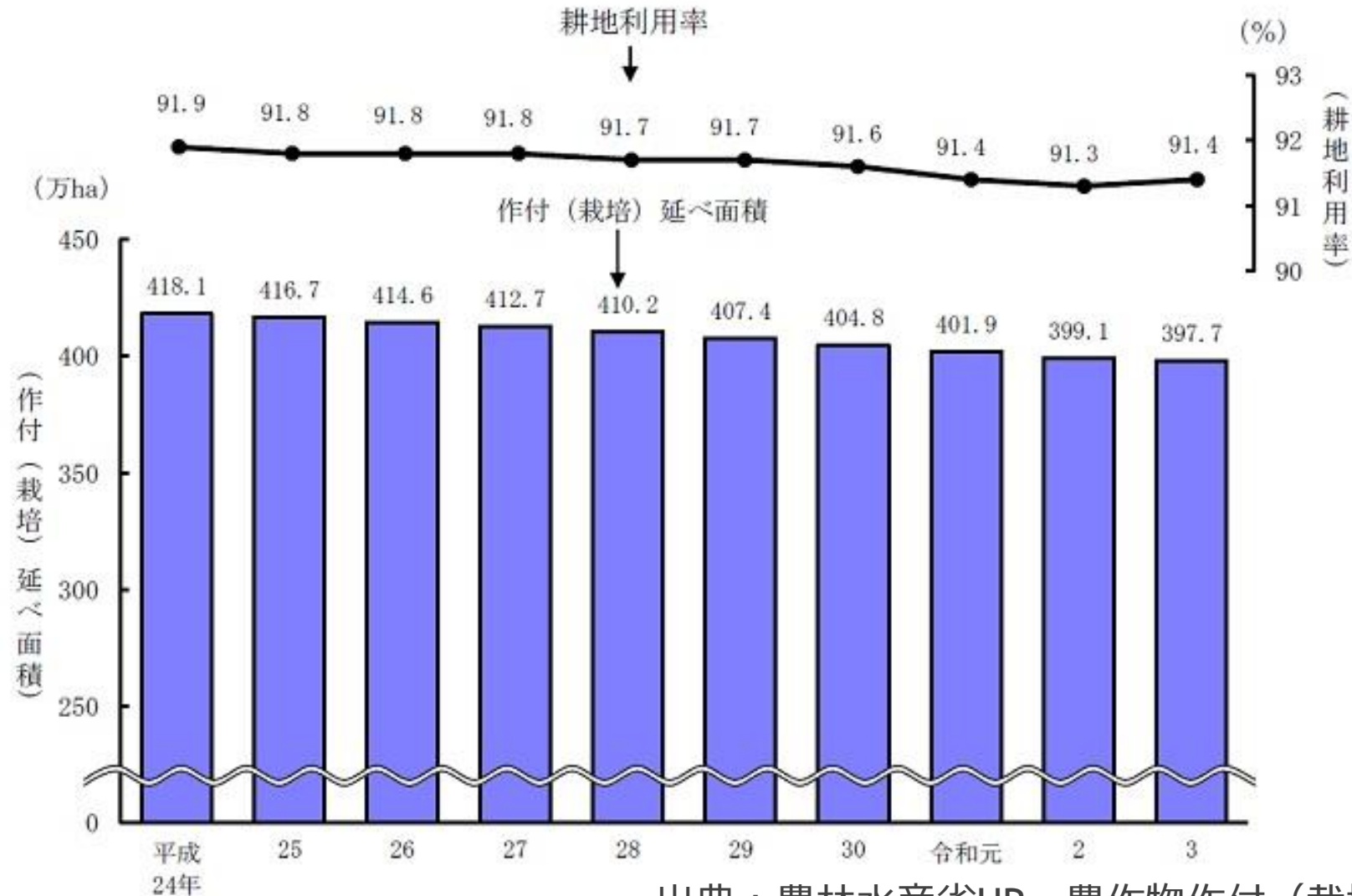


諸外国との食糧自給率の比較



(2) 農作物作付け面積の推移

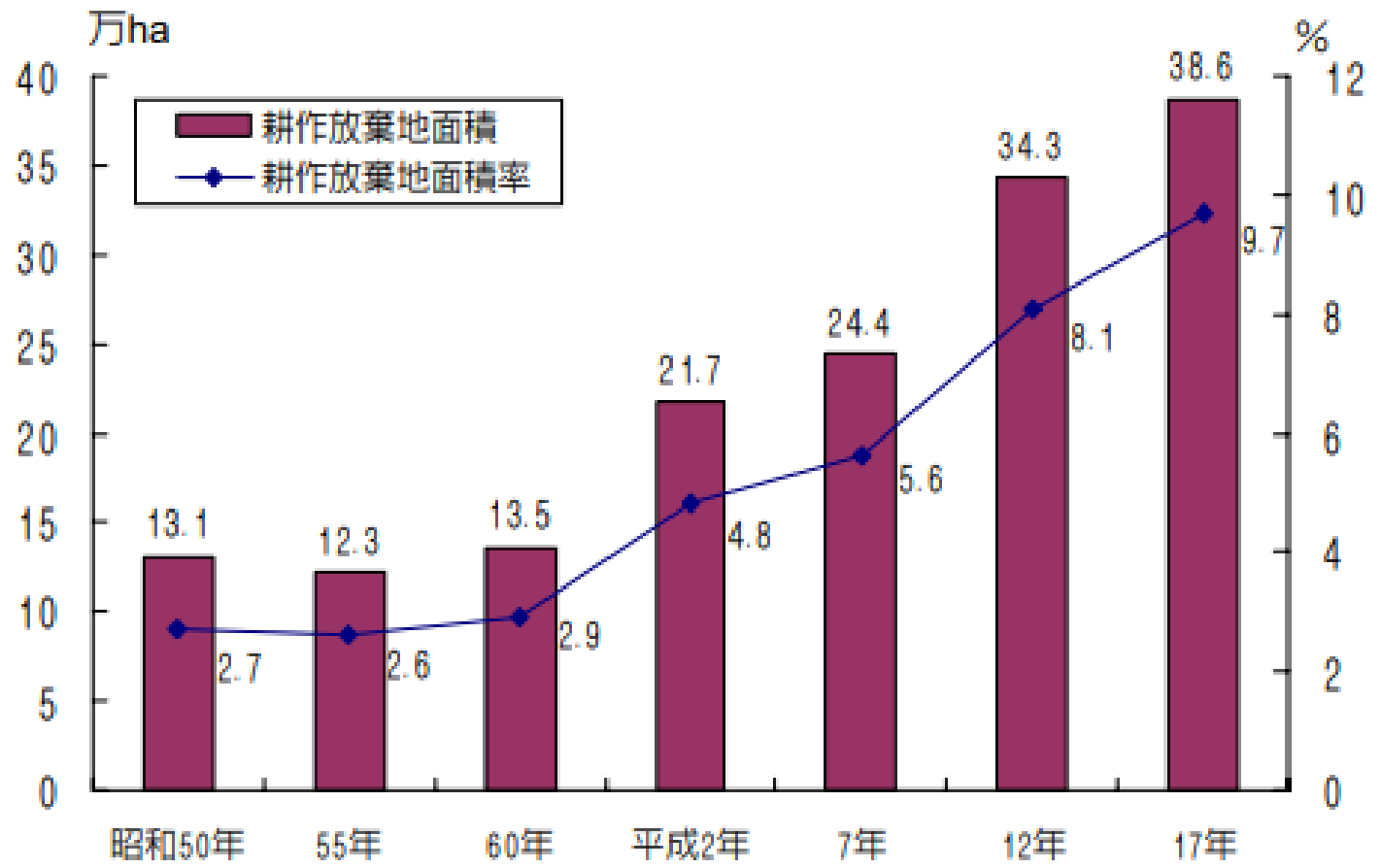
農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移（全国）



出典：農林水産省HP 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

(3) 耕作放棄地面積の推移

耕作放棄地面積の推移

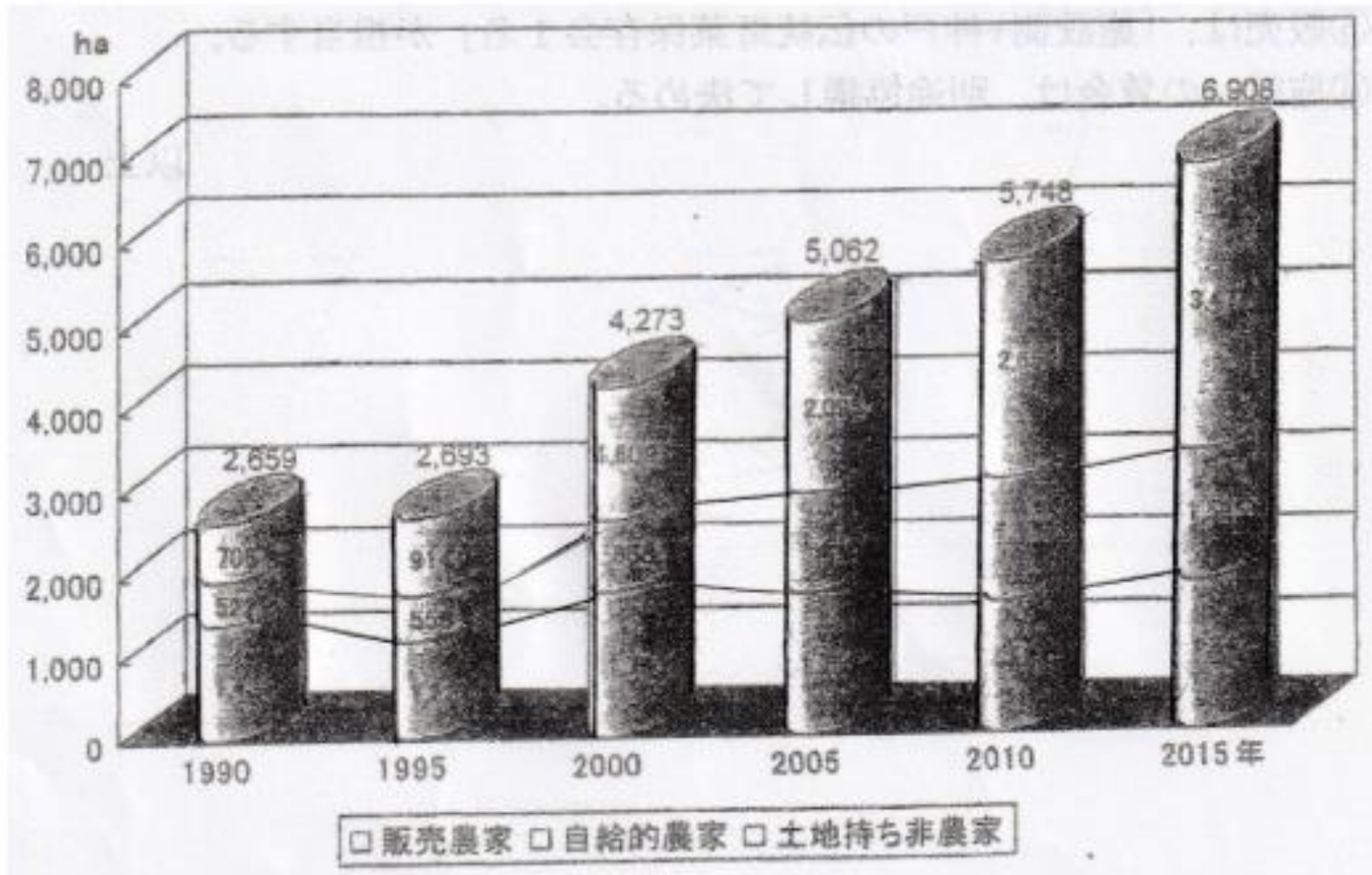


資料：農林水産省「農林業センサス」

注：耕作放棄地面積率は、耕作放棄地面積 ÷ (経営耕地面積 + 耕作放棄地面積) × 100

出典：農林水産省「耕作放棄地の現状と課題」平成19年3月

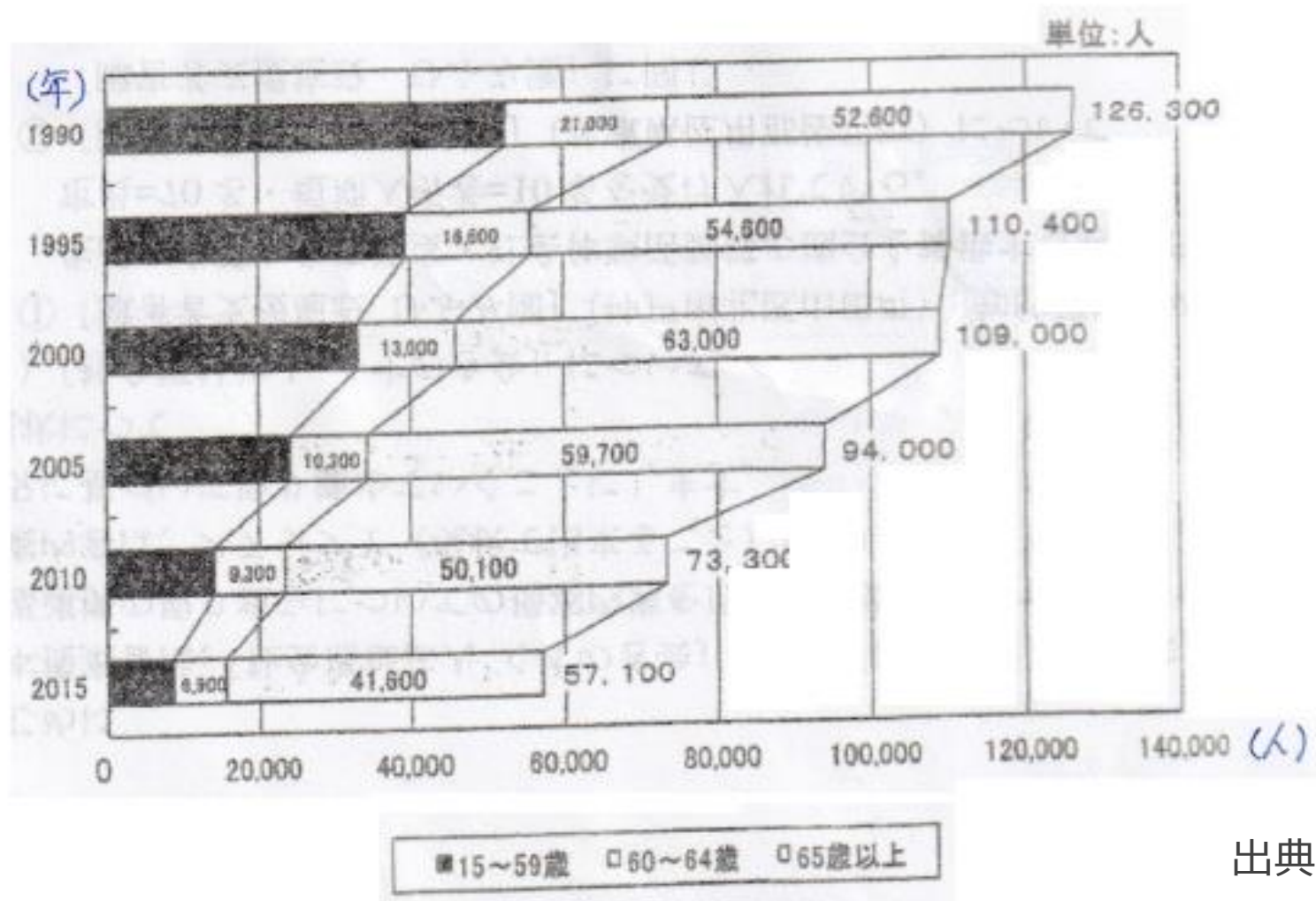
兵庫県 of 耕作放棄地面積



出典：保田茂氏講演会資料

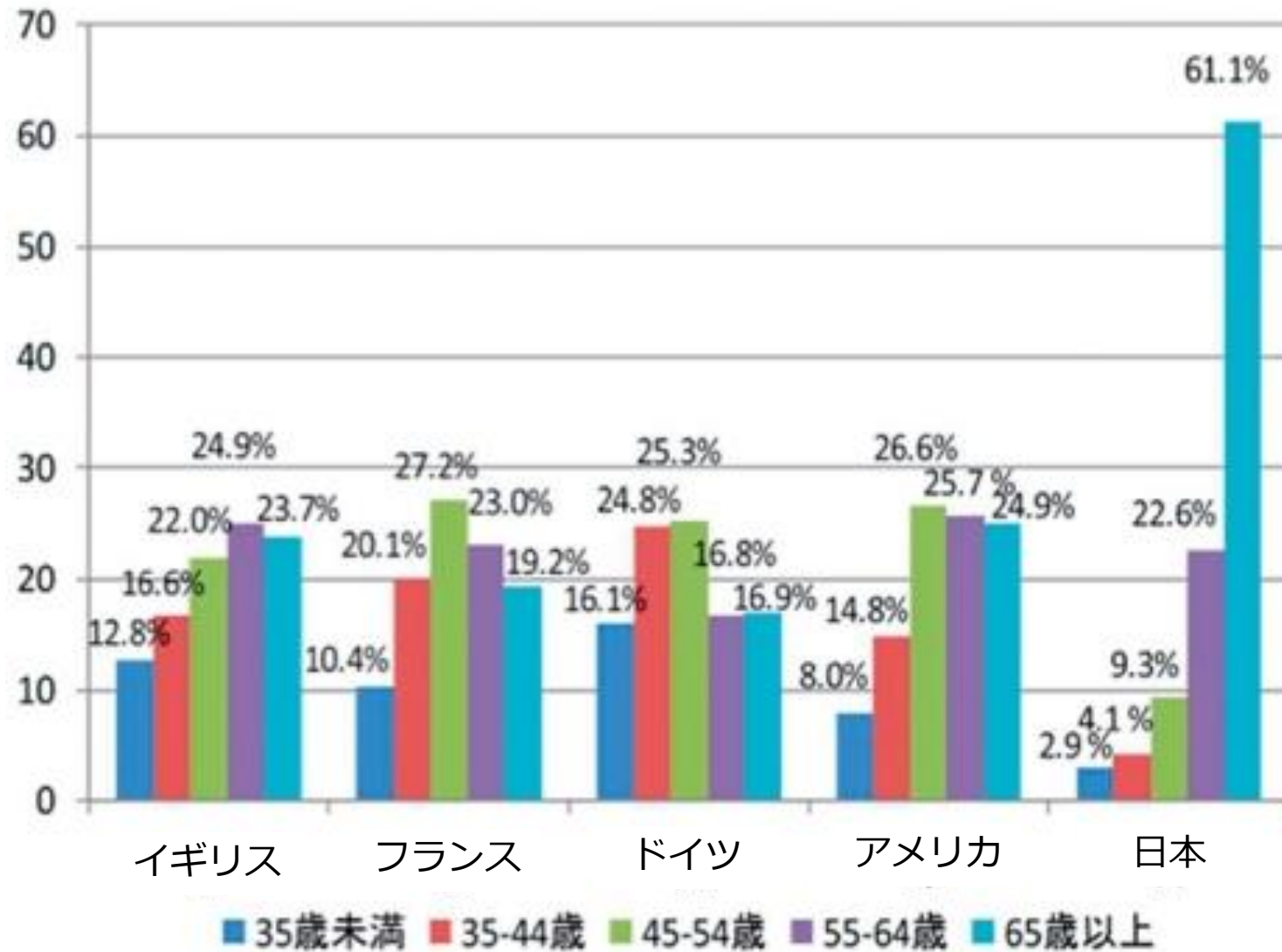
(4) 販売農家の農就労人口の年齢構成比

兵庫県の販売農家の農業就業人口

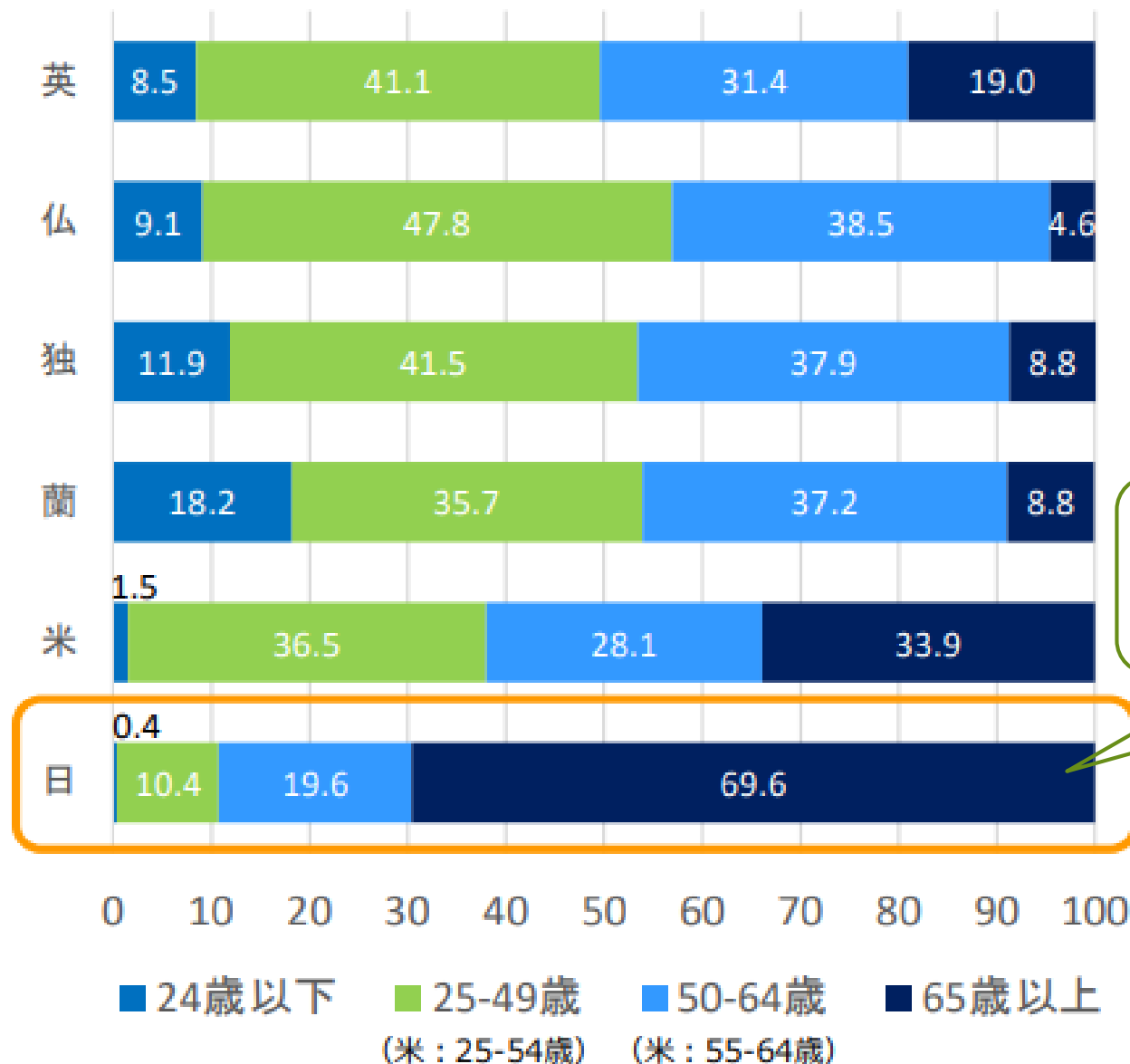


出典：保田茂氏講演会資料

各国の農業従事者の年齢構成



各国の農業従事者の年齢構成



日本の主な農業従事者は
65歳以上

出典：
英は、EUROSTAT(2019)：農業に従事した世帯員
仏独蘭は、EUROSTAT(2020)：農業に従事した世帯員
米は、米国農務省「2017年農業センサス」：農業に従事した世帯員
日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)：基幹的農業従事者

3. 「在来作物」と「伝統野菜」

(1) 野菜の歴史

< 各時代ごとに渡来した野菜 >

奈良時代・平安時代 : 大根・かぶ・ねぎ・ニンニク・なす・きゅうり・里芋

安土桃山時代 : ほうれん草・えんどう・そら豆・すいか・かぼちゃ・唐辛子

江戸時代 : さつま芋・たけのこ・インゲン豆

明治時代 : キャベツ・玉葱・結球白菜・トマト・パセリ・人参

第二次世界大戦後 : カリフラワー・レタス・芽キャベツ・ピーマン・アスパラガス

日本原産の野菜はほとんどない ふき・ウド・わさび等ごくわずか

(2) 日本原産の野菜

日本原産の野菜はほとんどない

ふき・ウド・わさび等ごくわずか

出典：鈴木芳夫著「野菜栽培の基礎」



(3) 在来作物とは

< 定義 >

- ① 特にならない
 - ② 歴史性にとらわれず、家宝のように代々伝承されている品種
 - ③ 人から人へと伝わり、それぞれの土地・風土・気候に適して変化する品種
- ▶ 単に遺伝資源としての種ではなく、その場所の**土壌・水・気候条件に適応し、**
世代を超えて栽培・利用されてきた作物をいう
- ▶ 種をもらって栽培し、採種 → **元の特性が変化したものは同名の在来作物ではない**

但し、「山形在来作物研究会」の考え方である

(4) 伝統野菜とは

< 定義 >

- ① 統一されたルールは特にない
- ② 各都道府県が独自の定義を定めている
- ③ 主な考え方は、「地域と深いかわりがある」「ある程度の古さがある」

例として・・・

- ①年代指定 . . . 「昭和20年代以前から」
- ②時代指定 . . . 「明治時代・江戸時代から」
- ③年数指定 . . . 「30年前から・50年前から」
- ④穏やかな指定 . . . 「古くから・昔から」

「京都の伝統野菜」の場合

< 定義 >

- ① 明治以前に導入されている
- ② 京都全域で栽培されている
- ③ タケノコを含む野菜である
- ④ 栽培又は保存されている品種及び絶滅した品種

< 認定品種 >

「36品種、絶滅2品目、準ずる3品目」 ⇒ 合計41品目

例：聖護院ダイコン、聖護院カブ、山科ナス、壬生菜、伏見トウガラシ等

「江戸東京野菜」の場合

< 定義 >

- ① 江戸時代から始まる東京の野菜文化を継承している
- ② 種苗が自給又は近隣種苗商で確保されている
昭和40年頃の在来種・栽培法に由来

< 認定品種 >

48品目

例：千住ネギ、滝野川ゴボウ、金町小かぶ、東京ウド、練馬大根 等

「なにわの伝統野菜」の場合

< 定義 >

- ① 概ね100年前（明治時代初期）から大阪府で栽培
- ② 苗・種子の来歴が明確で大阪府独自の野菜
- ③ 栽培に供する種苗の確保が可能な野菜
- ④ 大阪府内で生産されている

< 認定品種 >

15品目

例：毛馬キュウリ、玉造黒門越ウリ、勝間南瓜、金時人参 等

ひょうごの「ふるさと野菜」の場合

< 定義 >

- ① 古くから地域で栽培
- ② 種や苗があり、自ら採種できる
- ③ 全国流通品種と異なり、個性のある兵庫の野菜

< 認定品種 >

28品目

尼崎市 . . . 武庫一寸そらまめ、富松一寸まめ、尼いも

西宮市 . . . 鳴尾いちご（絶滅） ⇒ 品種改良品種として「宝交早生」

船坂のパセリ（絶滅）

* 兵庫県では「伝統野菜」という表現を用いず、ひょうごの「ふるさと野菜」と命名しています

全28品目一覧

- 尼崎市 . . . 武庫一寸そらまめ、富松一寸まめ、尼いも
- 西宮市 . . . 鳴尾いちご（絶滅） ⇒ 品種改良品種として「宝交早生」
船坂のパセリ（絶滅）
阪神のオランダとまと
- 三田市 . . . 三田うど
- 明石市 . . . ベッチンうり
- 加古川市 . . . 加古川メロン
- 姫路市 . . . 太市のたけのこ、姫路のれんこん、網干メロン・妻鹿メロン
深志野メロン、網干水菜、姫路若菜、海老いも
- たつの市 御津町 . . . 御津の青うり
- 宍粟市 山崎町 . . . 宍粟三尺キュウリ
- 香美町 香住 . . . 平家かぶら
- 朝来市 朝来町 . . . 岩津ねぎ
- 養父市 八鹿町 . . . 朝倉さんしょう
- 丹波篠山市 篠山町 . . . 丹波黒、住山ごぼう、やまのいも
- 丹波市 柏原町 . . . やまのいも
青垣町 . . . あざみ菜、青垣三尺キュウリ

「神戸の伝統野菜」 （認定はされていません）

< 定義 >

- ① 古くから地域で栽培
- ② 種や苗があり、自ら採種できる
- ③ 全国流通品種と異なり、個性のある兵庫の野菜

< * > 兵庫県の定義

< 選定（認定を目指す）品種 >

2品目

とまと . . . オランダトマト

いちご . . . 鳴尾いちご（絶滅） ⇒ 品種改良品種として「宝交早生」

「神戸の伝統野菜」 栽培風景

① 鳴尾いちご

兵庫県立淡路景観園芸学校にて



「神戸の伝統野菜」栽培風景

②オランダトマト



兵庫県の在来野菜

播磨地区 : 石井みどり（ピーマン）、とっちゃん菜、八ちゃんナス、ハリマ王ニンニク
播州こぶ菜、青みずな、市川大ナス、マチコネギ

但馬地区 : イゴ芋

丹波地区 : 立野ネギ、祖岡きゅうり、新英ナス、一日市キシマウリ

摂津地区 : 青味大根

* 鳴尾いちご（絶滅） ⇒ 品種改良品「宝交早生」

オランダトマト ⇒ 品種改良品「桃太郎」

岩津ネギ ⇒ 朝来市岩津町以外で品名を変えて栽培されている可能性あり

丹波黒 ⇒ 品種改良品として「大丹波黒」か??

多くは種苗店で扱っていません ⇒ 例：尼いも、オランダトマト、ベッチンうり、
宍粟三尺きゅうり、岩津ネギ、ハリマ王ニンニク

(5) 兵庫県の野菜

兵庫県で作られている主な野菜

- 摂津： キャベツ（11月～5月）
トマト（神戸市は県内最大の生産地）
いちご（12月～5月、ハウス栽培中心
観光農園が人気）
- 丹波： 丹波黒大豆（徳川時代の献上品）
丹波大納言小豆
- 但馬： キャベツ（神鍋高原で栽培、初夏に出荷）
ピーマン（「たじまの濃いやつ」で人気）
大根（轟高原で夏に収穫）
スイートコーン（県内最大の生産地）
- 播磨： キャベツ（明石から稲美町にかけて大産地）
播磨なす
- 淡路： たまねぎ（県内出荷量の95%）
泉州たまねぎ技術供与
レタス（10月～6月の長期間出荷）
白菜（三原平野は県内最大の生産地）
- 東播磨： トマト（樹木で完熟させ濃度の高いものを出荷）
ミニ冬瓜（約2kgで人気上昇中）

4. 好まれている野菜と収益性の高い野菜

(1) ランキングベスト10

		子供が好きな野菜ランキング
1位	トマト	トマト
2位	じゃがいも	じゃがいも
3位	たまねぎ	さつまいも
4位	キャベツ	きゅうり
5位	枝豆	ニンジン
6位	大根	かぼちゃ
7位	きゅうり	メロン
8位	さつまいも	たまねぎ
9位	ほうれん草	とうもろこし
10位	なす	すいか

(2) 収益性の高い野菜

1. ランキングベスト5

- 1位 ミニトマト (夏場の市場価格下落)
- 2位 キャベツ (市場価格の変動が激しい)
- 3位 レタス (夏場の需要大)
- 4位 サトイモ (管理コスト少)
- 5位 レンコン (業者向け需要)

2. 収益をあげるためのポイント

- ①経費があまりかからない ⇒ 栽培期間が短い、手間がかからない
- ②労働時間が短い ⇒ 植えっぱなしでもできる
- ③栽培方法を工夫する ⇒ コンテナ栽培の応用
- ④需要が安定している ⇒ リピーターが確保できる (美味しい、安心、安全な野菜)
近くに売る場所がある (レストラン、道の駅、マルシェ)
希少価値が高い (伝統野菜、在来作物)

(3) 収益性をあげるための工夫

1. 圃場全体の施肥の評価

- ① 根の周辺に限定した施肥の可否
- ② マッシュルーム堆肥、自家堆肥等の活用
- ③ 自家製ボカシの検討（例：マッシュルーム堆肥＋米糠＋油粕＋海藻等）

2. 栽培方法の検討による作業の軽減

- ① 白ネギ栽培で土壌を盛る代わりに、遮光シートを使用
- ② 大根、ゴボウ等の根深品種には柵板を使用
- ③ 畦等の栽培できない場所に、コンテナ栽培（土嚢袋栽培）を行い、除草作業の軽減をはかると共に栽培場所を増やす

3. 希少品種の野菜を栽培する

- ① 「伝統野菜」「在来作物」を栽培する
- ② 加工品を作る（例：トマトジャム、黒にんにく、漬物）

5. まとめ

異常気象が進む中、

「何」を「いつ」「どんな方法で」作るか難しい状況です

- ・過去にとらわれない
- ・新しい方法（斬新）
- ・新しいもの（過去の良いものを復活）

チャレンジも必要かもしれません！！

加工品（スイーツ・ジャム・漬物等）もおもしろいかも

現在、**農業は大きな分岐点**にきている

皆さんの斬新なアイデアと行動力で

今後の進むべき方向を示して頂くことを

大いに期待しています

コンテナ栽培（土嚢袋栽培）の状況

神戸の伝統野菜保存会
渡部 啓史



2021.7.22

なすび



かぼちゃ



すいか

ご清聴ありがとうございました

2021.7.22